

「いつかは誰かの憧れに」

大東消防署消防課 救助隊
消防副士長 安川 恭央

【決意の日】

私が消防士を志したのは高校二年生の時でした。卒業後は進学せずに就職を考えていましたが、特にやりたいことも無かった私にとっては、漠然としたものでした。

そんなある日、偶然大東消防署の近くを通り掛かった時にオレンジ色の服を着た人達が必死に訓練をしている姿に感銘を受け、私もこんな風に格好良い仕事がしたいと思いました。家に帰って調べるとその人達は救助隊と呼ばれる人達だということが分かり、高校卒業後は消防士になることを決意しました。



【努力は裏切らない】

現在は、憧れていた救助隊として勤務しており、日々訓練や勉強に励んでいます。特に力を入れて取り組んでいる事は、救助技術指導会です。これは、毎年一回行われる全国の消防本部が救助技術を競い合う大会です。大東四條畷消防組合では、「ほふく救出」と呼ばれる種

目にエントリーしています。この種目は3人1組で行い、煙道と呼ばれる8mの横穴の先にいる要救助者を、迅速かつ安全に救出する競技です。時間にして1分に満たない時間で完結する種目に、組織一丸となって取り組んでいます。今年、兵庫県で開催された第50回消防救助技術近畿地区指導会では、日頃の訓練の成果を発揮することができ、大阪府下1位を獲得し、東京都で開催される全国大会への切符を手にすることが出来ました。



【未来に種を蒔く】

平成25年に入職し、今年で10年目という節目の年になります。この仕事は10年経ってもまだまだ若手の部類です。訓練、研修などで新しいこと吸収する毎日です。

皆さんも採用された際には、災害現場の第一線で年数に関係なく同じ働きが求められます。辛いこと苦しいこともあります。多くの仲間が助けてくれる職場ですので熱い気持ちのある仲間をお待ちしています！

